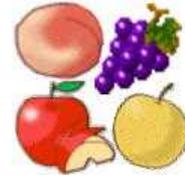


平成29年度 果樹情報 第11号

(平成29年8月23日)

福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (8月前半：果樹研究所)

平均気温は、平年と比較すると1半旬が23.1℃で2.8℃低く、2半旬が25.8℃で0.1℃高く、3半旬が22.2℃で3.3℃低く経過しました。この期間の降水量は97.0mmで平年の139%でした。

2 生育状況 (8月15日時点：果樹研究所)

(1) もも

ア 果実肥大

暦日比較では、「ゆうぞら」は縦径114%、側径119%と平年より大きく、満開後日数による比較でも平年より大きい状況です。

イ 中生品種の収穫期と果実品質

「あかつき」の収穫盛期は8月2日で平年より3日早まりました。果実の大きさは278gと平年並で、RM示度(糖度)は13.6と平年より高くなっています。「まどか」の収穫始期は8月8日で平年より2日早く、果実は大きめで、糖度は平年並の傾向にあります。

表1 モモの主要品種の収穫期と果実品質

品種	収穫始(月/日)			収穫盛(月/日)			収穫終(月/日)			平均果重(g)			RM示度		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
はつひめ	7/7	7/8	6/30	7/11	7/11	7/4	7/13	7/15	7/7	273	261	263	13.1	11.3	10.0
日川白鳳	7/10	7/16	7/7	7/11	7/19	7/11	7/13	7/22	7/15	249	230	248	12.6	10.7	10.6
暁星	7/18	7/23	7/15	7/22	7/27	7/18	7/28	7/31	7/22	221	215	214	14.0	12.7	12.6
ふくあかり	7/21	7/24	7/15	7/25	7/30	7/19	7/31	8/3	7/22	284	259	239	13.9	12.8	11.5
あかつき	7/31	8/2	7/21	8/2	8/5	7/24	8/7	8/10	7/28	278	265	257	13.6	12.6	13.0
まどか	8/8	8/10	8/2	未	8/14	8/5	未	8/19	8/10	未	333	377	未	13.2	14.6
川中島白桃	未	8/24	8/15	未	8/27	8/17	未	8/31	8/22	未	333	434	未	12.8	15.0
ゆうぞら	未	8/31	8/16	未	9/4	8/20	未	9/9	8/25	未	324	355	未	12.7	14.0

※ 未は未確定

(2) なし

ア 果実肥大

暦日比較では、「幸水」は縦径107%、横径107%と平年よりやや大きく、「豊水」は縦径111%、横径113%と平年より大きい状況です。満開後日数による比較では、「幸水」は平年よりやや大きく、「豊水」は平年より大きい状況です。

イ 「幸水」の成熟経過

満開後111日(8月15日)における成熟調査結果は、果実硬度が7.2ポンドとほぼ平年並であり、RM示度は10.0と平年を下回っています。果皮中クロロフィル含量は12.1μg/cm²とほぼ平年並となっています。

果皮中クロロフィル含量の低下に対する果実硬度は平年値を下回っており、クロロフィル含量の低下が若干遅れる傾向にあります。

ウ 「幸水」の収穫期予測

8月14日現在、果樹研究所における平均気温と降水量をもとにしたDVR予測プログラムによると、「幸水」の収穫盛期は平年より2日早い8月29日と予想されます。

表2 「幸水」の成熟経過

生育日数	硬度(lbs.)			地色			RM示度			果皮中クロロフィル含量		
	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
111	7.2	7.4	7.9	1.4	1.6	1.4	10.0	11.3	11.4	12.1	11.8	12.1

平年値：1991～2016年、果皮中クロロフィル含量： $\mu\text{g}/\text{cm}^2$

表3 DVRによる「幸水」の収穫盛期予測

DVR予測	平年	昨年
8月29日	8月31日	8月22日

(3) りんご

ア 果実肥大

暦日比較では、「つがる」は縦径104%、横径104%で平年並、「ふじ」は縦径101%、横径103%で平年並の状況です。満開後日数による比較では、「つがる」は平年よりやや大きく、「ふじ」は平年並の状況です。

イ 「つがる」の成熟状況

満開後100日（8月9日）における果実品質は、硬度が15.8ポンド、デンプン指数は1.4、RM示度は12.1、リンゴ酸は0.36%となっています。生育日数で比較すると、果肉硬度は平年よりやや高く、デンプン指数は平年並に推移しています。また、アントシアニン含量は高く、クロロフィル含量は平年並となっています。

(4) ぶどう

ア 「あづましずく」の収穫期と果実品質

収穫始期は、長梢栽培が8月8日で平年より5日、短梢栽培が8月10日で平年より5日早まりました。

8月8日収穫の長梢栽培の果実品質は、果皮色（カラーチャート値）が10.2、RM示度が17.8%、酒石酸が0.51%、糖酸比が34.8でした。

表4 「あづましずく」の収穫始期

	2017年	2016年	2015年	2014年	平年
長梢栽培	8/8	8/4	7/31	8/11	8/13
短梢栽培（一文字整枝）	8/10	8/8	8/5	8/12	8/15

※ 平年は2004年～2016年の平均値。

イ 「巨峰」の成熟状況

8月15日（満開後69日）現在の「巨峰」（無核栽培）の成熟状況は、RM示度が17.0、果皮色が9.7、酒石酸含量が0.77%、糖酸比が22.0となっています。RM示度の上昇及び酒石酸の低下は平年より早く、昨年並に推移しています。果皮色のカラーチャート値は、平年より高い状況です。

3 栽培上の留意点

(1) も も

ア 晩生種の収穫前管理と収穫

中生種では収穫期が平年より3日程度早く経過しています。また、8月に入り降雨日が続いており、中生種では核割れ等による軟質果やミツ症の発生が見られていることから、晩生種についても収穫が遅れないように注意しましょう。また、核割れや収穫期の降雨により、果肉軟化が助長されるおそれがあるため、果実成熟のバラツキに留意し適期収穫に努めましょう。8月下旬に収穫期に入る「ゆうぞら」等の晩生種については、夏季せん定、支柱立てや枝吊り、反射シートの設置等収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

また、有袋栽培では、今後の天候が曇天となる場合には除袋の遅れにより着色不良となることがあるため、除袋をはじめとする着色管理作業を計画的に行いましょう。

(2) な し

ア 「幸水」収穫の留意点

「幸水」の品種特性として、収穫盛期以降に降雨などにより急激に土壤水分が増加した後は果皮クロロフィルや果肉硬度の低下が急激に進むので、収穫が遅れないように注意しましょう。収穫基準は、JA全農作成「幸水」用カラーチャートの1.5～2を目安にし、適期収穫に努めましょう。

なお、収穫時の果実温度が高いと果肉軟化が促進され芯腐れ果の発生につながりやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管するようにしましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日（果樹研究所8月22日）頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多は休眠期の紫変色枝枯症の発生を助長するので、着果量を「幸水」並み（10a当たり10,000果）とし、適正着果に努めましょう。

(3) りんご

ア 早生種の収穫前管理

本年は、7月に気温の高い日が続いたことから日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは天気予報を確認して高気温や強日射直前の作業は控え、果実の日当たり条件を考慮しながら徐々に行いましょう。

イ 早生種の収穫

「つがる」の成熟は平年並に推移していますが、夜温が高温で経過する等の気象条件によっては果肉先熟傾向となる場合があるので、収穫が遅れないように注意しましょう。

(4) ぶどう

ア 収穫適期の把握

収穫時期は品種、地域、樹勢、房型や着房量によって異なってくるので、果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等について総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫はなるべく果実温度の低い早朝に行いましょう。また、収穫や調整の際に果房を直接手で持つと果粉が落ちて商品性が低下するため、収穫時及び収穫後の調整を行う際には穂軸を持って扱うように心がけましょう。さらに、脱粒を防ぐために収穫後の果房の取り扱いには丁寧に行い、コンテナ内に果房を重ねたり運搬の際に揺れてこすれたりしないように注意しましょう。

4 病虫害防除上の留意点

(1) 病 害

ア りんご褐斑病、炭疽病

褐斑病および炭疽病の感染、発病が増加する時期であるため防除を徹底しましょう。

イ もも灰星病

降雨により灰星病の感染が助長されるため、収穫まで防除を徹底しましょう。薬剤は灰星病防除剤（県病虫害防除指針参照）のいずれかを、除袋後の間隔が空きすぎないように注意して使用しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第5世代成虫の発生盛期は8月6半旬頃であり、第6世代の防除適期は8月6半旬～9月1半旬頃と推定されます。多発している園では収穫後の防除も徹底しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

第3世代成虫の発生盛期は8月4半旬頃であり、第4世代の防除適期は8月5～6半旬頃であると推定されます。第3世代以降はなし果実への寄生が増加するため、例年なしでの果実被害が多く、かつ近隣のもも園で芯折れが多い地域では防除を徹底しましょう。

ウ カイガラムシ類

例年、ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

エ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉当たり雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょ。

表5 主要チョウ目害虫の防除時期の推定
(果樹研究所 平成29年8月15日現在)

今後の 気温予測	モモハモグリガ		ナシヒメシンクイ	
	第5世代 成虫盛期	第6世代 防除適期	第3世代 成虫盛期	第4世代 防除適期
2℃高い	8月26日	8月30日	8月19日	8月25日
平年並	8月28日	9月1日	8月19日	8月26日
2℃低い	8月30日	9月3日	8月20日	8月28日

注) 演算方法は三角法による。

起算日：モモハモグリガ 8月8日、ナシヒメシンクイ 7月23日

病虫害の発生予察情報・防除情報

病虫害防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょ。

発行：福島県農林水産部農業振興課 技術革新支援担当 TEL 024(521)7344

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。)

URL: <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>